



共助社会フォーラム

グローバルタウンをどうつくるか

外国籍住民が増え、国籍・文化の違いを認め合い共に地域をつくるのが全国的課題になり各地で多様な取り組みが行われています。その先進的な事例から学びつつ、今後、自治体、国際交流協会、NPO、事業所、そして地域に暮らす人々は、何を*していけばいいかを考えます。

2024年 3月 9日 13:00~ 15:30

常総市生涯学習センター オンライン参加可

参加費無料

申込フォームはこちら

内容

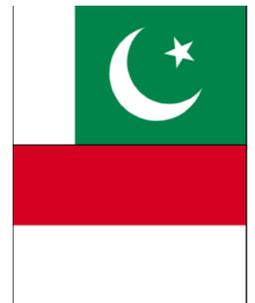
報告1 大阪市生野区での多文化共生の拠点整備とまちづくり

報告2 岐阜県可児市での外国ルーツのこどもの学習支援

報告3 茨城県常総市でのピアサポーター育成と多文化ソーシャルワーク

討議 グローバルタウンとはどんな地域か、その実現に向けて、自治体、国際交流協会

NPO、事業所、そして地域に暮らす市民は何を*していけばいいかを議論します



主催 参加申し込み 認定特定非営利活動法人茨城NPOセンターコモンズ

TEL:0297-44-4281 FAX:0297-44-4291 MAIL:global@npocommons.org

後援 常総市 助成 令和5年度茨城県提案型共助社会づくり支援事業

ゲスト紹介

森本宮仁子さん NPO法人「IKUNO・多文化ふらっと」代表理事

聖和大学（現：関西学院大学）教育学部 幼児教育学科 卒業

大阪市立大学大学院 創造都市研究科 修士課程修了（都市政策士）

大学卒業後、社会福祉法人聖和共働福祉会 大阪聖和保育園に保育士として就職

1988年～主任保育士 1992年～施設長 2004年～事務局長（業務執行理事）兼任

2016年3月 施設長退任。2016年4月～事務局長選任、2020年4月～「聖和100周年保育

ビジョン研究所」所長兼任 2020年10月～「IKUNO・多文化ふらっと」代表理事



各務 真弓さん NPO法人 可児市国際交流協会 理事 事務局長

2000年に「うちなる国際化」を目指して発足した「可児市国際交流協会」の運営委員となる。

2008年1月可児市国際交流協会NPO法人格取得と同時に理事となり、同年4月オープンした

可児市多文化共生センターの事務局専任となる。2010年度より現職。（特活）可児市NPO協

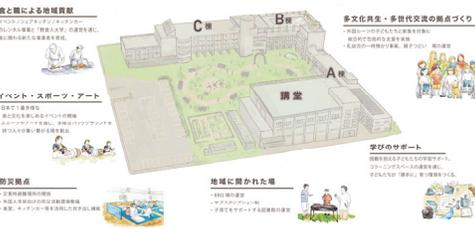
会理事、岐阜県多文化共生推進員、文化庁地域日本語教育アドバイザー。



大阪市生野区（人口 12万6千人 外国籍住民22%）

在日韓国朝鮮の方が多く暮し、コリアタウンが有名。その近くにあった小学校が廃校となり、その活用策として、多文化共生の推進拠点として「生野パーク」を企画。市から場を借り受け、保育、教育、図書館、飲食、スポーツ、農業、美術、など多様な入居者からなる複合公共施設を企業と連携して運営。若い世代が文化で交流するイベントも多く開催されている。

いくの コーライブスパーク 誰もが暮らしやすい「全国 No.1 のグローバルタウン」へ



岐阜県可児市（人口 10万人外国籍住民比率7%）

ブラジルやフィリピンの人たちが多く暮し、外国ルーツのこどもの教育に関して、全国で初めてプレスクールを教育委員会が設置するなど、先駆的な取り組みが行われている。2008年には、多文化共生センタープレビアが会館。同館を運営する可児市国際交流協会は、日本語、防災、生活など様々なテーマで外国籍の人への学習機会を提供している。



常総市（人口 6万5千人 外国籍住民 11%）

食品工場が多く立地し、90年代から日系ブラジル人が多く暮すようになり、2015年の鬼怒川水害後、空き家、空き地が増え、外国籍住民の転入が増えの人口の比率が高まっている。

茨城NPOセンターコモンズは2008年から外子国籍住民の教育、福祉に関わる事業を、空き家を改修して行っている。

特に、外国籍当事者によるピアサポーターの育成に力をいれ生活福祉相談、居住支援、多文化保育、多文化防災も実施。



活動拠点 えんがわハウス（はじめのいっぽ保育園）